

第三十五回中央教会研究会議

平成十四年九月六日 全体会議（第二日目）分散会報告（録音再録）

今配った用紙に皆さんが書いてくださった「自己評価2」の全意見を書き出しておりますが、誤植がありますので直します。二頁「第一分散会」上から六つ目「あまり貢献できなかった」が抜けています。同じく上から十個目「自己満足の結果であったか」「と」「対内的にハナにも」ではなくて「対内的には何を」ということです。さらに下から五つ目「自分自身の満足感に終わったのではないか」を入れてください。最後の第四分散会の頁、下から十二番目「未信徒に対する弘通においては、一住職では無理があるものと」が「無理がある。もつと宗門での動きが必要である」これらを訂正願います。他は、お書きになった文章通りに打っておりますのでご理解下さい。それでは全体会議を始めます。全体会議座長の中山観能師お願いします。

中山 全体会議を始めさせていただきます。お題目三唱で始めますので、ご唱和お願いいたします。「南無妙法蓮華経・南無妙法蓮華経・南無妙法蓮華経」。

ただ今より二日目の日程、全体会議を開会いたします。二日間のご討議ご苦勞様でした。皆さんの真摯なる討議によりまして出てきました成果を、第一―第四分散会の記録者に約十分間でご発表願います。お時間に都合が着きましたら、関連のご質問も受けられるかと思しますので、ご協力お願いします。それでは、第一分散会からご報告をお願いします。

第一分散会 失礼いたします。第一分散会の記録を担当しました小寺成文と申します。今回KJ法ということで、戸惑いながらも時間いっぱいまで熱心に検討していただきました。その中で、昨日十九名を二グループに分けて、検討した内容を集約しました。二グループのまとめは、時間の都合上、最後までは検討できませんでしたので、集約できた部分を発表いたします。残りは、二グループ各々で集約した箇所をお話しするという形でご報告します。

最初に「檀家層・未信徒層の信徒化を計りたい」。ここで、内容につきまして「未信徒層」というのは、檀家さんの家庭内部、例えば子供さんであるとか、家庭の中で次世代への信仰の相続という意味での「未信徒」です。また、本宗の檀信徒以外の未信徒層も含まれます。「檀家層」というのは悲しい現実ですが、はたして檀家さんが信徒といえるのか、というところまで検討しました。そのようなことを話し合って「檀家層・未信徒層の信徒化を計りたい」としました。

続いて「お題目総弘通運動に対して意識が低かったので、十分な取り組みができなかった」。これは「運動」というものについて、立教開宗七五〇年慶讃事業とお題目総弘通運動が連動しているのか、別々の運動なのかということについて、個々人によって意識の差があったのではないか。それには、総弘通運動が三期十八ヶ年の長きに渡ることもありましょうし、管区のなかでの役職、立場によっても違うのではないか。そういったところでお題目総弘通運動について意識が低かったので、十分な取り組みができなかったという意見に集約されました。

以上が、二グループを集約できたところです。これから読み上げるものは、昨日の分散会で分かれた二つのグループでの意見です。

「本当は未信徒教化をしたいけれど、未信徒教化が十分にできなかったので自己満足と自己認識している」。「七五〇運動に参加して、自分なりに活動することができた」。「お題目総弘通運動の最終目標や、夢を持てる目標がなかったのでやり遂げたと実感できない」。「自己満足で終わった。信徒・檀家・教師一体の充実感が欲しかった」。「役職等を通じて運動に参加し、大いに成果を得た」。「自分の役割を果たし、成果を得たが、十分な満足感はない」。「運動への関与が浅く、評価ができない」。「目標は達成したが、充実感はなかった」。以上が、本日総合的にまとめられなかった部分です。これらが、第一分散会で検討した内容です。最後の意見で「消化不良気味であった」との意見もありました。以上でございます。

中山 ありがとうございます。第二分散会よろしく願います。

第二分散会 第二分散会の意見を発表させていただきました伊藤美妙です。昨日の分散会では、「自己評価1」を基に一人一人が書いた評価をまずお話しいただきました。その話を聞いた上で、もう一度お題目総弘通運動についての「自己評価2」に記入していただきました。それで、Aグループ七人・Bグループ八人に分かれて、それぞれの意見を分類し作業に入りました。

Aグループでは、会議そのものに対する疑問、成果ありという意見、または評価はできるが反省点はある、宗門の呼びかけと日常との間にギャップがある等の意見が出されました。

Bグループでは、総弘通運動を永遠に、事業に対する批判、迷子、という意見もありました。成功したという意見のなかには、松竹梅に分かれ、松は満足、竹は反省、梅はゼロという評価も一部ありました。大成功したという中には、役職において成功した、しかし自坊においては、燃焼できなかったという意見がありました。

本日の分散会では、これらを再び検討し直して集約しました。その集約した意見は、お題目総弘通運動に積極的に参画し一応の成果は得たと思う。例えば、宗門事業として箱物はできた。しかしながら教師・檀信徒の意識向上までは図れなかった。その主なる原因は、宗門事業に対する参画意識の欠如である。なぜ欠如しているのか。それは、その気にさせる方法が判らない。メッセージが伝わらなかった。しかしながら、このお題目総弘通運動は、永遠の課題であるということは皆のまとまった意見でした。少数ですが、このKJ法によるワークショップ会議への要望疑問等もありました。これで第二分散会の発表を終わります。

中山 ありがとうございます。第三分散会お願いいたします。

第三分散会 第三分散会の報告をいたします坂輪宣政です。第三分散会にご出席の皆さまの積極的な努力によって、順調に会議を進めることができました。今回報告する件は、以下の如きです。

総弘通運動の総括について、八つの意見に集約されました。①成果に満足している、という意見もありましたが、②努力したが満足にいたらず、③自坊中心を反省、④運動理念の理解不足で参加しませんでした、戦力になれずごめんなさい、残念です等、個々の努力はともかくとして、運動に十分に関与し共同して成果を上げたという達成感をもつには至らなかった、という意見が多くありました。中には、⑤言われたことはやった、これでええやろ、と表現されるような行事には参加したが、受動的な対応であったと回顧する意見もありました。また、⑥地道な檀信徒教化が大切、⑦まだまだやるぞ、本当はこれからだ等、檀信徒も含めた息の長い不断の努力が重要である、運動の結願以降も自分なりに精進していきたい、運動とは直接運動せず努力してきた、という意見もありました。また、⑧社会問題にも積極的に関与して欲しかった、と表現されるような、宗門の取り組みへの不満もありました。

第三分散会では時間に余裕がありましたので、将来への展望として、宗門への要望と自己の展望の二つにまとめてみました。

まず、宗門への要望を概略的に述べます。①このままではあかん、②このままいこか、総弘通は永遠に、③ええ僧侶にならなきゃ、④この時代こそ女性教師を、⑤強力で適切なリーダーシップを、⑥優秀な戦略と、皆が参加できる具体的な運動を、⑦広報戦略を工夫せよ、⑧本気で社会戦略を、という意見にまとめられました。

次に、自己の評価、将来への展望について概略的に述べます。①まず自分自身の誓願から、②未信徒教化の充実、③自坊檀信徒教化の充実が基本だ、④実働的な組織作りが重要、⑤立正平和を目指した社会活動の充実、⑥飲み食い、は程々にして法が先、以上の六つの意見にまとめられました。以上をもちまして、第三分散会の報告といたします。

中山 ありがとうございます。第四分散会お願いします。

第四分散会 第四分散会でのまとめを担当しました、宮淵泰存でございます。第四分散会では、二九名の方のカードを整理いたしました。始めに皆さんのご意見を出していただきましたが、三、四人目で自分たちのグループは信行

会についての意見を書いた集まりではないか、という予測が皆さんの中から出てきました。予め、パソコンで整理されるということ意識しながら、キーワードに何を入れるかを意識しすぎている方もおりまして、パソコンのことを書こうと思ったがあえて普通に書いたという意見もありました。本日まとめ上げた中で、ほぼ四つの意見に集約されました。これらについて述べます。

一、信行会等の組織活動をしているが、さらに継続発展させることが課題である。二、教師としての資質向上が必要である。三、未信徒教化こそが弘通である。四は、どこにも当てはまらなかった一枚のカードですが、信行活動には都市と地方の差を考慮すべきである。ということでございます。

それぞれの内容にまとめられたご意見でございますが、三つのグループに分かれまして、それぞれ表のタイトルを付けた中で、一番目のグループは四つのタイトルを付けています。二番目のグループは七つのタイトル。三番目は六タイトルでありました。本日はそれらをまとめ上げた中で、どのカードを中心とするのかによってもキーワードの取り方によっても違うなと思いつつ、最終的にまとめられました。

一、「信行会等の組織活動をしているが、さらに継続発展させることが課題である」の中にまとめられた意見で、「過去の活動を反省して次の教化に役立てよう」「和讃信行会の組織活動、管内活動の評価できる成果が見られる」。「情報提供が未信徒教化に役立った」「まわりの寺院の協力があり、教化活動に成果が上がった」「組織作りによって、教化に成果があった」。「今までの教化活動は成功した」。これ等が、「信行会等の組織活動をしているが、さらに継続発展させることが課題である」をふまえて、さらに発展させまとめた意見でした。

二、「教師としての資質向上が必要である」、ここでは、「教化には教師の信念が必要である」「教化方法が判らない」「教化活動には工夫が必要である」「教化活動には努力が必要である」「弘通の認識が薄い」等ありました。

三、「未信徒教化こそが弘通である」について、これは檀信徒では成功していたが、意識の中では未信徒教化に対

する力不足、浸透の浅さを強く意識していた意見がありましたので、あえて檀信徒、未信徒を区別して未信徒教化について今後の課題とすべきであると捉えました。

そして四「信行活動には都市と地方の差を考慮すべきである」、これは、一枚だけでしたが、このようなことはつきりと区別して宗門は提示していただきたいという意図がくみ取れました。

以上がまとめであります。昨日、意見を交換するなかで、皆が同じ部分の問題意識を持ち寄っていることもありまして、意見が出やすかったと思います。まとめ作業の中で、小さなグループに分けたため一人一人が自分の意見を出しやすく、まとめ作業が容易であったという感想を持ちました。また、始めはキーワードをできた、できないで分けていたが、途中からさらに深くもう一度組み直しをしていたグループもありました。最後まで、熱意ある討議ができたと思います。以上です。

中山 どうもありがとうございました。四分散会のまとめ発表が早く終わりましたので、各会へのご質問を承ります。柴田上人どうぞ。

柴田 分散会の各発表についての質問ではないのですが、一番最後の第四分散会の発表の中で、同じような考えをもった人達が集まったからなのか、とても意見がまとまりやすかったというお話がありました。このことについては、一番最初にアンケート調査をとって、それを基に一つの分散会に分けたという作業があったわけですが、そのことについて、最初に出したアンケート調査が三つの項目に分けての記述でしたが、これはどういう形でどういう基準で分類したのかということ、予め判っているとやりにくいですが、もう終了しましたのでどのように分類したのかをお教えいただきたいです。どのような方法で、どのような作業で、どういう基準で分類したのか、それを教えていただきたいと思います。

中山 今、柴田上人からのご指摘でしたが、同じような考えをもった方を集めることによって、討議をスムーズ

に計ろうという手法がありましたが、今それを終えましたので、どのような形で分類わけしたのかということを、影山上人お願いいたします。

影 山 自己評価で、一番始めの四分散会に分けるにあたって、皆さんに運動にどう関わったか、それに対する自己評価、その理由についてということで三つの項目にお答えいただきました。その中で、パソコン操作しまして一の運動への関わりが、宗門的・管区的・寺院のか、後は個人の布教という部分で関わったのかということで、四つの項目。それから、それに対する自己評価、よくできた、まあよくできた、まあできなかったという三つの分け方ですね。三の理由、問題の位置づけについてですが、社会的な問題はそれが背景に大きくあったのではないかと項目と、宗門の行政的な問題が大きいのではないかと。それと自分が関わる寺院の運営。それから教師としての信仰の資質の問題なのか、という四つの項目をリストグラムで割って各分散会に振り分けました。振り分けた背景には、先ほどの第四分散会の記録から発表がありましたが、意見が両極の方が同じところに入っていますと、その意見が違うという拒否の形ができてしまう。すると会議の運営が、KJ法の方法論でまとめていきますので、意見のまとまりを作るということ、同じような傾向の方々がより自分たちの意見を深めていただくということで、このような方法をとったということをご理解願いたいと思います。

中 山 ありがとうございます。柴田上人、今のご答弁でよろしいでしょうか。

柴 田 どういう方法で分類したのかについては、今始めて聞きましたので了解しました。ですが、果たしてそのことで分類したから会議がスムーズにいったのか、それともそのような作業がなくてもうまくいったのか、それは結果論として判りませんが、こういう予め人を分類するという方法の可否については、もう少し慎重にご検討いただければと思います。

中 山 他にご質問ございますでしょうか。このような分散会の持ち方についてのご質問もありましたら。伊藤主

任どうぞ。

伊藤 当方で、從來にない形で会をもちましたのは、どうしても上から意見を言う。上から引っ張っていくという事へのご不満があります。しかし、下から意見が出るかといえばなかなか出ません。そのへんの隘路がみえますもので、皆さんからどうやって意見をちようだいできるか、みなさんが全部発言してもらえるかどうかということを工夫の第一にしました。今年しかできない。もう清澄法要が終わって七五〇が終わったという気分が蔓延していると私は感じます。そうではなくて、今年が最終年ですからまだ気持ちが暖かいうちにどういうふうにご自身が七五〇、総弘通運動十八年間を受け取っていらっしゃるのか。記憶の新しいうちの今年しかできないことと思い、企画しました。ですが、自己評価を問うことに慣れないというか難しかったようで、各分散会をまわりカードを拝見しましたら、自己評価2のプリントに出ています。自己評価になつてらっしゃる方、あるいはそうでないんじゃないか、ちよつとはずれた書き込みがあるのではないかという方もおられました。これが現状だと思います。ですが、社会はもつと進んでいます。こういう事も含めて自分自身を厳しく見つめること、自分の所属する団体を厳しく見つめること、それがよかれと思つてやることで、世間は成り立っておりますが、我々はちよつとボヤツとしてるのではないのか、いうこともこの会議を準備する段階で意見がありました。ですから、これから評価をしていきますので、言い足りないことがあったら、意見として、特にポスト七五〇ということではなくて、自身の足場の問題、宗門の問題、そしてポスト七五〇の問題ということで、どんどん意見をちようだいでするだけ。それをしっぱなしで、我々が受け止めて、今までの運動、あるいはこれからの運動の、是非参考にさせていただきたいと、そう思っています。

そういう点では、四つの分散会から非常に具体的なお話が出ていました。そして、四つの分散会では非常に話が出ておりまして、回らしてもらつて皆がご発言があった、それから一体感があつた、それはそれなりに工夫をしたことでもありますけれども、從來ではない成果とも思っております。その辺の評価をきちつといたしますので、また後ほど

書面で報告いたしたいと思いますが、せっかく時間がありますので言い足りない事やら、四つの分散会の中で判らなかったことがあったら是非ちようだいしたいと思います。

中山 会議の持ち方等につきましては、現宗研の方も今回の成果を見て、またご意見を聞きましてよりスムーズに会議を運べるように努力していくとさせていただきます。お時間がございますので、関連についてご質問あればお受けしたいと思います。

亀井 千葉南部の亀井と申します。七五〇が終わったという意見は、それは上からの宗門といいたしうか、スローガンが終わったということ、常に上から、次はこう次はこうとあるわけです。それも必要でしょうが、下から意見、要望を採り上げることも必要であると思います。例えば、予算とかパンフレットも必要でしょうが、行き渡っていないように思います。であるならば、予算を集めるだけではなくて援助して欲しいと思います。それも調べたりすることは必要ですが、上からと下からと両方でやっていかないとうまくいかないと思います。そして、教研会議に出席して、それがいつもブツブツと一年ごとで終わってしまっています。昨日の先生方のお話では、宗門を動かすといっていますが、本当にそれは反映されているのであろうか。そしてこの場で話し合ったことは、地方へはあまり行きません。ここで話して終わり。地域に帰ったら、私のところ千葉南部では話が出ませんし、何もやっていません。また、個々の地域の話題を話して話になるのか、ということもあると思います。それは個人の意識の問題ですが、全く考えていない人もいますし、そのようなことを問題にしてもしょうがないと思う人もおりましよう。そのようなことを思いました。以上です。

中山 これについて、主任さん、何か宗門上に反映させていきたいという、要望を私どもが抱いているということ、どのようにお伝えただけなのであろうか。それから、教研の成果というものが、いかに自分たちの地元に反映されていくのか。地方教研等もありますが、そういうところはいかがでしょうか。

主任 宗門は、今年から伝道企画会議というものを立ち上げました。それが、管区・教区・中央へ意見が上がつていって年度、年度の計画をあげるという段取りができております。画期的なことだと思います。是非これが、血肉が入るようにしていただきたいと思います。その前段階といえますか、一番基礎のところに教化の方策を研究する会議という意味での教研会議があるわけであります。実験的な、研究的な、調査的な方法でいろいろな問題提起をしていける場所だと思っております。成果は後のことですが、成果に至るまでに何をすべきか、皆さんが何を要望しているのか、ここが一番聴ける場所ではないかと思っています。伝統的に現宗研は、三十五回の教研会議を当初からやってきたわけですが、上下といいますが少しデコボコがありますけれど、そういう点では原点に戻る形で皆さんが必要とする中央教研会議として、教区の教研会議もそういう性格をもっていたいただきたいと思いますので、皆さん方のお声がなければ成り立たない会議だと私は思っておりますから、是非お願いしたいと思っています。

中山 主任さんにお聞きますが、地方に対してこういったものが、反映されていくのだろうかということにつきましてはいかがでしょうか。

主任 お配りしたピンクの冊子、会議資料の後ろに従来そうやってきました、中央教研と地方教研のリンクがちゃんとあったんですが、いつのころからかボヤッとなってきました。私は、一年たったばかりの新米主任ですが、もったいないと思います。中央からおろせとか、決してそんなことはありません。中央と地方の教研の話がお互いに行ったり来たりして、宗門全体の姿が見えてくると思います。やるべき事が出てくると思いますから、中央が何をやる、ということが嫌ならばみんなで寄せ集めましょう、ここで。足下は教区・管区・個人だと思っています。そのように活動していただきたいし、そしてもっていききたいと私はもっています。

中山 他にご質問ございますでしょうか。有本上人。

有本 大阪の有本でございます。過去に教研に参加したり、他の大会に参加したことを思いながら聞いておりま

した。昔はこういう会議がありますと、宗務院の政策が悪いからだという、上に対する批判というのが非常に多かったのですが、近年は自己反省ということが多く出てきました。も一つ今回の特徴は、七五〇が過ぎて未来に対してどうするかという希望が少しずつ見えてつづあります。そのようなことから見ますと、宗門からこんな新製品があるぞとか、一般社会から目玉商品が出る、というようなことは一遍にはいきません。最初に影山上人は自己反省することで教研会議を行いたいとおっしゃいましたが、反省ばかりしているといっこうに前には進まないと私が発言しました。その意見がどのように反映したかは判りませんが、幸いに前進的な意見が出てきました。これから我々は、過去になっていくわけですが、新しい人達が未来に対する不安を抱く、というような意見に対して是非、未来志向の新しい目玉商品のようなものを教研会議の中から拾い出していきたいと思っています。したがって、テレビ新聞で広告を出すというような意見は全く出てきませんが、よそではやりつつあります。こういうものが出るということは、百万の味方になります。日蓮宗新聞等で出ており、少しは意識があると思いますが、社会に対してのPRを現宗研でも突っ込んで考えればいいのではないのでしょうか。是非、新しい布教方法、まして核家族化してきますとお爺さんお婆さんに伝えても、子供は遠方にいます。我々も努力はしていますが、若い世代にも法華経の教え、日蓮聖人の精神を伝えなければなりません。せっかくこのような機会があるわけですから、ボツボツこのようなことも考えてはいいのではないのでしょうか。以前からそのようなことは言いつつ、予算が無いだとか色々ありましたが、前進的な希望を持てる目玉商品を作ってもらいたい。過去に対しては、あえて言いませんが、未来に対してお願いをする次第であります。以上です。

中山 有本上人はこれからの要望、教研のあり方また、現宗研の研究の中で新しいメディアを使い、未来を展望できる布教法を構築していこうということでした。ありがとうございました。主任さん、このことに関して、現宗研側で何か新しいメディアを使つての動きなどはあるのでしょうか。

主任 DPJ（デジタル研究プロジェクト）というチームで、いま撮っている作業もそうなのですが、去年の清澄での中央教研、今年の清澄の法要をライブ中継をしました。実験的にやっていますが、これは研究だと思っています。使えるものを使っていく、失敗するかもしれないことをやらせてもらえることは、非常にありがたいことです。テレビ電話で会議もしてみたいと思います。そのようなことを、宗報や所報を使ってどんどん皆さんに出していきまので、どんどん使ってください。今回のKJ法、ワークショップ等使えるものはどんどん資料として出していきまので使ってください。何よりも皆さんのお声が、反映というか、皆さんのお声の必要な部分をきちっと受け止められる限りしていきたいと。原点に返ってやっていきたい。現場からのお声があって始まった教研です。現場の声ではなくて、抽象的な理念的なことばかりやっておって、乖離していくと思っています。この声は聞きっぱなしではないけませんので、来年の開催方法も含めまして、内容も十分精査いたしますのでどうぞもっと積極的なご参加を。今回が宗務院新庁舎開催というファーストトラックで、来年はまた少ないのではないかと予想も当初あったのですが、人数も多くなりまして女性教師の参加も多くなりました。何よりもご発言がありました。こういう形で細かいところを汲んでいきますのでどうぞ、前向きにご協力、ご理解をお願いいたします。

中山 DPJの活動の具体例等を皆さんはお知りになりたいのではと思うのですが、主任さんどうでしょうか。

主任 いろいろやっています。

中山 現宗研にお問い合わせいただければ、パソコンを使った布教法等DPJの方もおりますので、ご意見をお寄せいただきたいと思います。他にご意見ありますでしょうか。

安芸 山形管区の安芸と申します。今回のKJ法は、意見集約ということに関しては大変評価しております。私は第三分散会でしたが、反省だけではだめだと。これからのことをみんなで考えたらいいんじゃないかと。これからの宗門を考える、皆さんの意見を出すときこそ、このKJ法を使って深く掘り下げていった方がより具体的に色々な

意見が出てくるのではないかと思います。その点、これからの展望について、現宗研として構築していくときにこのような方法をもう一回していただければありがたいと思っています。KJ法で類型化したものを、事項ごとに意見を出していただければ、より具体的な見解が出てくるのではないのでしょうか。もう一つは、今日の意見は一般教師・寺院の意見が浮き彫りになってきたと思いますが、宗門のトップグループ、役職員、宗会議員、所長、教区長それぞれの自己評価を我々が逆に見て、そのギャップが出てくるか、実態を見てみたい、その辺も知っておきたいので、できれば画策していただきたいと思います。

中山 これからの要望と言うことで聞かせていただければよろしいですね、ありがとうございます。他にございますか。

矢ノ浦 山梨県の矢ノ浦と申します。只今のご意見と若干複合しますが、七五〇に対しては慶讃事業、慶讃法要を行うと若干の助成金が出ました。慶讃布教師を呼ぶとその分の礼金を出してくれるという、物理的な資金援助もあったわけですが、総弘通に対して、資料はいただきました、これこれをやりなさいと。これは支援ではなくて、やりなさいという資料だったと思います。宗門として我々、檀家十軒、二十軒の山寺がやることについては、どのような支援をしてきたのか、今後このような事業が続くと思いますが、その時に弘通というものに対しての各お寺の活動にどういった支援を具体的にしていくなのか、先ほど出しました、宗門の自己管理、評価も必要ではなかつたということも合わせて、話を伺えたらと思っています。

中山 宗門に対してそのように働きかけて欲しいということを、教研会議の中で取り扱っていくということですね。

主任 時間的にこれで最後にしていただきたいと思います。総括といいますが、運動を総長さんの方からしなさいとご指示があったのは私、今回が初めてだと思っています。画期的なことだと思っています。そして中間アンケ―

トをとりました。これから年度が終わりました時点で、五千ヶ寺、八千教師全員のご意見をいただけるような格好で現宗研として全教師へのアンケート調査をし、そこで実際の声が出たものを反映していこうと、そういう中で今の意見も必ず反映できると思っています。お願いいたします。調査のアンケートを出しますので、是非ご協力いただきますようお願いいたします。

中山 よろしいでしょうか。石川所長どうぞ。

石川 お題目総弘通運動のご努力をいただいておりますが、そうしたことに對する助成金に関しましてはもう護法運動の頃からそうした活動をするところには、今は護法伝道部はございませんが、伝道部の方からしかるべき申請に従って、満足がいくほどのものではございませんがそれぞれお送りしてきたはずです。

中山 それではお時間になりました。二日間に渡るご討議、自己評価をしていただき、お題目総弘通運動を検証するという事で分散会・全体会に臨んでいただいた次第であります。本当に二日間ご苦勞様でした。これで全体会を閉じさせていただきます。どうもありがとうございました。

石川 それでは、お題目を三唱いたしますので、ご唱和を願います。「南無妙法蓮華經・南無妙法蓮華經・南無妙法蓮華經」どうもありがとうございました。二日間に渡りまして第三十五回中央教化研究會議を開催いたしましたところ、このように大勢の皆さま方のご参加をいただき、しかもご熱心な討議をいただきました。講評的な事に関しましては、先ほど主任から申しておりましたこともございますが、お題目総弘通運動の最終年にあたり、この中央教研に参加いただいた方々がそれぞれ自己評価をしようという課題を設けて研究會議を開催したわけであります。私も各分散会をまわり、皆さんのご意見を聞いておりましたが、大変活発なご意見が交換されていました。中には、当然こうしたKJ法という初めての試みに対する疑問を持たれた方もいるでしょう。また、あまりにも課題が大きすぎて、戸惑いを感じた方もおられるようですが、しかしながら、四分散会の方がご発表いただいた内容をお聞きしてお

りますと、十八年間あるいは途中からこの運動に関わったご意見が相当細かく出ていたような気がします。これは、何もお題目総弘通運動を宗門で立ち上げて、これをやるうではないか。だからみんな右を向け右、というのではなくて、それぞれが自己の立場においてお題目を広めることについては、昼夜常精進、その意識を持っておられたことは確かであります。しかしながら、ただ御仕着せのごとく、こうしなさい、ということに関しては、なかなか素直に聴けない部分もあった、ということも聞いたような気がします。何れにいたしましても、中央教研でのKJ法という初めての試みに、十分ご理解を賜りまして二日間ご討議をいただきましてありがとうございます。最後に、こういったことが宗門の次の運動に反映されるのであろうか、というような声もございました。確かに我々一教師という立場で考えますと、自分たちがこう思っているのにその通りに宗門は動いてくれない、ということもあるかと思えます。しかしながら今度の機構改革によりまして、先ほど主任も申ししておりましたけれども、少なくとも皆さんの声が管区の中で出てきて、そしてその管区の代表が中央において色々と意見を述べる機会、そういったのを考えた伝道企画会議というものができました。これが十二分に機能すれば、本当の意味でみんなの意見が集約されてくるはずでございます。それを生かすか殺すかは、これからの一人一人の自覚によるのではなからうかと思うわけでございます。今回は、いわば自己評価、反省が大いにあるわけです。反省無きところに進歩はないと、私は思います。最近、私が書きましたことを新聞にも載せたわけでございますけれども、半世紀以上前のことです。太平洋戦争があった。その太平洋戦争に、仏教界はそれぞれ負担をしたことは事実でありました。そしてそれがよかれと思ってやったことが、果たして昭和二十年のあの終戦を迎えたときに間違っていたのではないかということが判って、我が宗では当時の宗務総長、当時は総監といっておりますが、その総監の言葉の中に八寒八熱の苦しみを自分は味わっておる。宗門はあの戦争に負担をしたことに反省をしなければこれから先の宗門はないんだと、それほどまでにおっしゃった総長がおりました。その反省をふまえて、戦後の信仰運動、世界立正平和運動が始まったのであります。その意志を継承

して護法運動があり、お題目総弘通運動が生まれてきたのであります。これから先も、我々が目指すものは、お題目の世界をつくる以外にないんだと。仏国土建設と口では簡単に言いますが、そういう世の中作りをするには、それぞれがその意識にたっていないかなければならない、そういったことで、私は当面の目標は立教開宗七五〇年を目途としてお題目総弘通運動が昭和六十年から始まった、その十八年間の成果というものを、それぞれが自己評価するのは当然であり、そこから明日からの第一歩が始まっていくことになるのではなからうかと思っております。今回皆さま方のご熱心なご討議をいただき、二日間の教研会議を終了することができました。デジタル研究プロジェクトチームが裏方になって、皆さん方の意見をすぐさまこのようにプリントするなど、色々なことをしていただきました。そんなことで、討議もスムーズに行われたようにも思えます。どうか一つ、昨日私がいいましたように、自分が未来を作っていくんだという、そういう自負と誇りを持つてこれからも歩んでいただければありがたいなと、そういったことを申し上げて結びとしたいと思います。どうも二日間、誠にありがとうございました。

これをもちまして、第三十五回中央教化研究会議を終了いたします。遠近よりご参加、ご苦勞様でした。